

第27回資金管理業務諮問委員会 議事概要

1. 日時: 2008年12月22日(月)13時00分～15時15分
2. 場所: 財団法人自動車リサイクル促進センター 第1・第2会議室
3. 出席者: 永田委員長、鬼沢委員、小島委員、酒井委員、辰巳委員、細田委員、米澤委員
4. 議題: ①平成20年度第2四半期の決算報告について
②平成20年度第2四半期の運用の評価について
③平成21年度離島対策等支援事業への資金出えん計画について
④離島対策支援事業における燃料費変動に伴う海上輸送単価への対応について
⑤離島対策支援事業における海上輸送費の市町村間格差について
⑥取引証券会社における環境問題への取組み状況について

5. 議事概要

※ 本議事概要では委員の主な意見、決定事項を中心にまとめており、資料に関連する質疑については後日、議事録を公表いたします。

(1) 議題①について

平成20年度第2四半期の決算報告について、資料3-1から資料3-7を使用して事務局から説明。案のとおり了承された。

委員からは次のような意見があった。

<意見> (注)○は委員、●は事務局

- 資料3-2の参考資料「輸出返還台数及び平均単価の実績」にて平均単価が上昇して止まったが、その原因は何か。
- 比較的新しい車で装備がついたものが輸出されているのではないかと推測している。
- 資金管理料金の余裕資金の国債運用は3月に満期となるが、次の運用を6月に開始するのは効率が悪いのではないか。
- 検討します。

(2) 議題②について

平成20年度第2四半期の再資源化預託金等の運用評価について、資料4-1、4-2を使用して事務局から説明。案のとおり了承された。

委員からは次のような意見があった。

<意見> (注)○は委員、●は事務局

- 資料4-2「証券会社の検証について」の2.(2)の中にある「定量評価では・・・上半期の取引状況だけでは判断は困難である。」との表現がわかりに

くい。入替えについての検証で何をしようとしているのかわかるようにしてほしい。

- 資料を修正します。
- 運用可能額のうち40億円を次期に繰越すことは必要なのか。
- 継続検査時預託の制度が終了後、再資源化預託金等は新車時預託収入が40～45億円、支出が40億円位となっているので、収入の減少は資金ショートにつながる可能性が高いので、1ヶ月分の支出相当額は必要となります。

(3) 議題③について

平成21年度離島対策等支援事業への資金出えん計画について、資料5(別紙を含む)を使用して再資源化支援部から説明。案のとおり了承された。

委員からは次のような意見があった。

<意見> (注)○は委員、●は事務局

- 資料5資金出えん計画案について、計画値、実績値および想定値が混在しているため分かりづらい。夫々が分かるように明記してほしい。
- 資料を修正します。
- 発生予定台数と申請台数との差は年々縮小しているものの、依然として乖離がある。引き続き差を縮める努力をしてほしい。
- 引き続き、発生予定台数の精度向上を市町村に働きかけるとともに、申請低調市町村への訪問活動等により本支援事業の活用促進を図っていきます。
- 資料5別紙2-1の離島間の海上輸送における高額単価の存在について、地元に対して低減させる努力を引き続きするように要請してほしい。
- 地元に出向き、該当市および海運業者に低減努力を要請します。

(4) 議題④について

離島対策支援事業における燃料費変動に伴う海上輸送単価への対応について、資料6を使用して再資源化支援部から報告した。

(5) 議題⑤について

離島対策支援事業における海上輸送費の市町村間格差について、資料7を使用して再資源化支援部から報告した。

(6) 議題⑥について

取引証券会社における環境問題への取組み状況について、資料8を使用し

て事務局から報告した。

委員からは次のような意見があった。

<意見>

- 環境への取り組みもきちんとチェックしていることを伝え、公表することが重要である。

以上